

長門地域の受精卵を活用した改良促進への取組

西部家畜保健衛生所

○齋藤陽之・大石大樹

農林総合技術センター畜産技術部

長尾裕美子

受精卵移植技術は、優良繁殖雌牛から多くの産子を短時間で生産することができ、家畜改良の迅速化、高付加価値の牛の増産、繁殖不適牛の活用等、経営の効率と収益を向上させるメリットがある。一方、農家の受精卵移植に関する知識不足や受精卵採取に係る経費が必要になることも考えられる。今回、長門地域において「やまぐち和牛燦生産拡大推進事業」（以下、県事業）等を活用し、受精卵を活用した改良促進への取組を行ったので報告する。

1 長門地域内の受精卵活用状況

山口県全体で受精卵産子の割合が増加（令和2年度：4.1%、令和6年度：9.0%）する中、長門地域では1.0%に満たず低迷している。さらに、現地採卵実績も少なく、受精卵移植技術への負のイメージの払拭と正しい知識の共有が必要であった。

2 取組

受精卵移植技術の普及に資するため、畜産技術部で家畜人工授精師会長門支部を対象とした視察研修会を行い、正しい知識の共有を図った。

また、令和6年度からコスト低減や長門地域での普及を図るために県事業を活用し、体内受精卵生産を推進した。

加えて、繁殖障害等により体内受精卵を生産できない牛に対しては、畜産技術部の体外受精卵生産技術実証試験を活用した受精卵生産を実施した。

3 成果

視察研修会の開催により受精卵に関する正しい知識の理解がすすみ、受精卵活用のメリットを共有することが出来た。

また、地域の現地採卵頭数は令和6年度に民間実施の1頭と県事業の利用による1頭の計2頭、令和7年度には3頭へと増加した。さらに、新規採卵実施農家や採卵希望農家も現れた。

これらの取組により、高能力な繁殖雌牛からの受精卵が生産され、地域内農家への供給が実施できた。

4 課題と展望

今回の実証的な取組により、長門地域での受精卵普及の基盤が作られた。今後の更なる普及にあたっては、受卵牛の安定確保と受精卵移植師の育成も課題であり、関係機関を巻き込んだ地域一体となった推進体制の確立が必要である。今後も受精卵移植を推進し、高能力な肉用牛生産を通じて地域ブランド「長州ながと和牛」並びに「やまぐち和牛燦」の生産支援を継続していく。